

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【指扇中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題>各科目の領域ごとに、知識・技能の理解度の偏りが顕著である。 <指導上の課題>各単元の内容が生徒に印象付けられておらず、繰り返し学ぶ時間や指導の個別化が充分ではない。学習意欲を高める工夫が必要である。(学びの動機付け)	⇒ デジタル教科書やスタディサプリ等を活用する際、生徒のつまずきを机間指導等を通じて把握し、習得につながる支援・助言を行う。また、自身で学ぶ手段を選択できる時間を設定する。【R7年度さいたま市学習状況調査の教科の調査項目において、各教科の領域ごとの標準偏差が25pt以下】
思考・判断・表現	<学習上の課題>与えられた情報から判断して考察したり、自分事として捉えながら、自身の考えを表現したりすることが課題である。 <指導上の課題>ICTを通して生徒間で意見を共有したり、議論したりする「ICTを活用した協働的な学び」が充分に実践できていない。	⇒ 生徒同士の協働的な活動を重視し、ICTを活用して考えを共有したり、それを基に議論したりする。また、学校課題研究ESDにより、生徒が自分事として捉える姿勢の基盤を形成する。【R7年度さいたま市学習状況調査の教科の調査項目において、各教科で表現力をねらいとした設問に対する本校の正答率とさいたま市平均値との差が5pt以上高い】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、知識・技能における正答率は全国平均に比べやや下回る結果となった。特に語彙の意味を正しく理解する力や、文脈に即して正しい漢字を使用する力に課題が見られた。科目担当と共有し、言葉や漢字に触れる機会を積極的に取り入れることで、改善できるよう努める。数学では、知識・技能における正答率は全国平均に比べ大きく上回る結果となった。しかし、特定の単元における用語を正しく理解する力や、グラフから情報を読み解く力に課題が見られた。用語については学び直しの機会を設けることとし、情報を読み解く力については、他教科と連携し、意図的に授業に取り上げていく。
思考・判断・表現	思考・判断・表現における正答率は、国語と数学共に全国平均を上回る結果となった。しかし、国語では読み手の立場になって、手紙の文章の中から誤った表記を見つけ出す問題については、高い正答率を示す一方で無解答率は20ptとなった。数学でも問題の設定を読み解き、数量を推定する方法を見出す問題の無解答率に課題が見られ、与えられた文章の意味や語句の意味を正しく理解したり、はっきり示されていない数量関係を理解したりするなど、文章を読み解く力の定着が課題である。授業内でも積極的に取り上げ、様々な視点で文章に触れる生徒を育成する。

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)
③分析共有(児童生徒の実態把握)
夏季休業中

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	机間指導を繰り返し実施する中で、個人の習得具合に合わせた個別の助言を行うことができた。自身で学ぶ手段を選択できる時間の設定率は高くない。校内研修で話題に触れつつ、公開授業を行うことで、設定率を高めていく。	変更なし
思考・判断・表現	B	生徒がICTを活用して考えを共有する「じ・い・ゃ・く」の意義を取り入れた授業展開を多くの機会で行い入れることができた。また、ESDに関する講話を行うことで、ESDへの理解を高め、今後の方策をより効果的に進めるための基盤づくりが行えた。令和7年度全国学力・学習状況調査の中間調査の結果から、ICTの活用率はとても高いが、考えを発表する機会については多くなっていない。一層校内研修で授業研究を進めていく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)